

農作業を通じた環境保全と健康維持の両立及び 農業の多様な価値創出の検討

早稲田大学社会科学学術院教授 弦間正彦
共同実施者：NPO法人早稲田環境市民ネットワーク

背景・目的

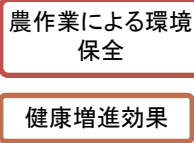
農作業による運動「アグリエクササイズ」の健康増進効果と社会便益について一定程度は認められたものの、新たな課題が抽出されている。農作業回数と精度向上した上での測定と、都市からの参加者を調査対象とした経済価値評価が必要であり、これらに環境保全の価値を加味したモデル構築を実施した。

実施体制

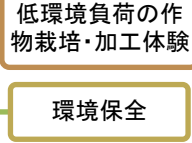
早稲田大学弦間研究室

NPO法人早稲田環境市民ネットワーク

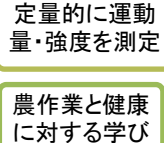
経済価値の調査



里山保全・利用

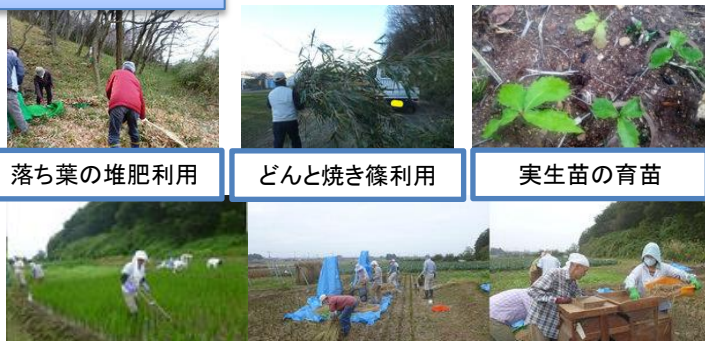


農作業の運動効果



活動内容①環境保全と健康への学びプログラム構築

里山保全・利用



落ち葉の堆肥利用

どんと焼き篠利用

実生苗の育苗

加工体験



ソバ加工体験

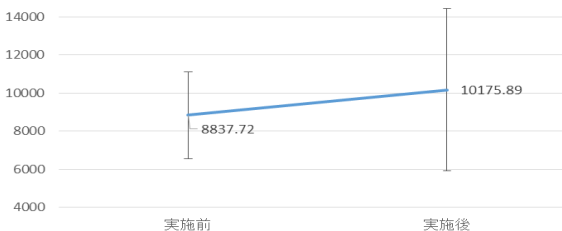
もち加工体験

のべ参加人数：405名
里山利用・保全や動力機械を使用せず伝統的農機具を使った人力での作業を行うことで、運動量・体力の向上、心の癒しに繋がる作業を行った。

- 伝統的農機具を使用した低環境負荷の作物栽培プログラム
- 手作業による労働集約的な農作業によるコミュニティ農場の構築

活動内容②農作業の運動効果の検証

●身体・体力解析被験者：9名



歩行活動量の経時変化

集団として平均値が増加しているもの、減少しているものがあったが、今回の結果は、どの項目に関しても優位差が認められなかった。

●歩数のデータのある19名を対象とし、2/3以上の出席の群(高出席群)とそれ以下の群(通常群)との比較

	平均値	標準偏差	相関係数			
			1	2	3	4
1 出席回数	68.42	14.70				
2 歩数変化率	2.78	26.16	.394***			
3 歩行EX変化率	2.55	42.82	.687	.874**		
4 生活活動EX変化率	-2.15	33.00	.460	-.441	-.488*	

*p<0.05 **p<0.01 ***p<0.1

歩数・活動量の変化率と出席回数との関係

出席回数と歩数の変化率には相関がある傾向が見られた。つまり、出席回数が増加すると歩数の増加が認められる傾向がある。

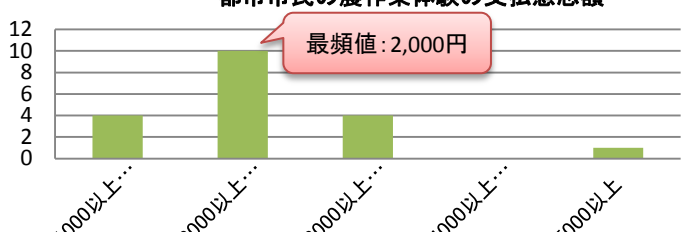
活動内容③農作業体験の経済価値調査

地域市民の農作業&健康づくり教室の支払意志額



学びと農作業を組み合わせることで地域市民にとっての農作業体験の支払価値が生ずる。

都市市民の農作業体験の支払意志額



都市市民にとっては2~3時間 2,000円の参加費が目安である。